

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌



JAMA vol.52
2018
[May]

5 月号

「LIMBEYOND

ユーザーや社会が主役の電動化をみんなで作る

第2回 AI・人工知能 EXPO

フェスティバル インお台場

モータースポーツ ジャパン 2018

「平成30年度定時総会 懇親会」

自工会 会長就任会見



JAMA

日本自動車工業会



2018年6月自動車関連イベント



 は二輪レース

 は四輪レース

国内/主要イベント

日時	場所	名称
6月 7-8日	大阪府 インテックス大阪	運輸・交通システムEXPO(大阪開催)
7-10日	東京都 東京ビッグサイト	東京おもちゃショー
9-10日	愛知県 ポートメッセなごや	名古屋ノスタルジックカーフェスティバル
20-22日	東京都 東京ビッグサイト	日本ものづくりワールド
23-24日	石川県 石川県産業展示館	キャンピングカーフェスティバルin北陸

国内モータースポーツ

日時	場所	名称
6月 2-3日	静岡県 富士スピードウェイ	 スーパー耐久 第3戦
9-10日	熊本県 HSR九州	 全日本モトクロス選手権シリーズ 第5戦 HSR九州大会
10日	群馬県・長野県	 全日本ラリー選手権 第5戦 群馬・長野
16-17日	宮城県 スポーツランドSUGO	 全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦
30-7月1日	茨城県 筑波サーキット	 全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦

海外モータースポーツ

日時	場所	名称
6月 2日	アメリカ デトロイト	 インディーカーシリーズ第7戦 デトロイトグランプリレース
3日	アメリカ デトロイト	 インディーカーシリーズ第8戦 デトロイトグランプリレース
3日	イタリア ムジェロ・サーキット	 MotoGPイタリアGP
8-10日	イタリア サルデーニャ島	 WRC ラリーオブイタリア
9日	アメリカ テキサス・モータースピードウェイ	 インディーカーシリーズ第9戦 テキサス600
10日	カナダ ジル・ヴィルヌーヴ・サーキット	 F1カナダグランプリ
10日	スイス チューリヒ	 フォーミュラE チューリヒEPRIX
16-17日	フランス サルト・サーキット	 WECル・マン24時間レース
17日	スペイン サーキット・デ・カタルニア	 MotoGPカタルニアGP
24日	フランス ポール・リカルド・サーキット	 F1フランスグランプリ
24日	アメリカ ロード・アメリカ	 インディーカーシリーズ第10戦 ロード・アメリカ

JAMAGAZINE 2018年 5月号

発行日 平成30年5月29日
 発行人 一般社団法人 日本自動車工業会
 発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
 〒105-0012 東京都港区芝大門 1丁目 1番 30号 日本自動車会館
 広報室・電話番号 03(5405)6119

©禁断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



01 2018年6月自動車関連イベント

02 自工会 会長就任会見 「平成30年度定時総会 懇親会」

08 自工会 役員名簿

09 2018年 春の叙勲・褒章

10 モータースポーツジャパン2018 フェスティバル イン お台場 (4月14日)

14 「第2回 AI・人工知能EXPO」 (4月4日~6日)

16 平成30年度 JAMA/JAF/全安協 セーフティレーシング& シニアドライバースクール

18 2017年度の福祉車両の販売台数

19 自工会 最新刊行物のご案内

20 コラム BEYOND

ユーザーや社会が主役の電動化を みんなで作る

ローランド・ベルガー代表取締役社長
 工学博士 長島 聡氏

21 記者の窓

「車を所有した我が家」 時事通信社 磯部 敦子

1 2 3 自工会 会長就任会見・「平成30年度定時総会 懇親会」
 4 モータースポーツジャパン2018 フェスティバル イン お台場
 5 第2回 AI・人工知能EXPO



「たすき」再び 18代目会長に豊田章男氏が就任 日本らしい“ものづくり”を牽引する

自工会会見(左から永塚副会長、西川副会長、豊田会長、八郷副会長、小銅副会長)



豊田章男会長

《挨拶》

6年ほど前、当時会長だった志賀さんから「たすき」をうけまして、自動車工業会会長を務めさせていただきました。その後、池さん、西川さんと、業界の発展に向けて、共に悩み、共に苦労を重ねて参りました。そして、本日の理事会におきまして、日本自動車工業会の18代目の会長の「たすき」を受け取りました。先輩の皆さま方に、感謝いたしますとともに、100年に1度と言われる大変革の時代。身の引き締まる思いを感じております。

自工会会長職への想い 日本のために少しでもお役に立ちたい

改めて申し上げますと、日本の自動車産業には、2つの特徴があると考えております。1つ目は、「日本には、品質に厳しいお客様がたくさんいらっしゃる」ということであります。言うまでもなく、自動車は、B to Cの産業であり、日本メーカーの品

質・技術力は、日本のお客様から教えていただいたものに他なりません。日本のお客様がクルマ・バイクから離れるということは、日本企業である我々の競争力を失うこと、そのものなのだと思えます。お客様にとつて一番良いやり方は何かを常に

考えながら、進んでいくことが必要だと考えております。2つ目は、「自動車は、裾野の広い産業で、たくさんの現場がある」ということです。2輪や商用車も含め、自動車産業には、素材や、部品、物流など、多く

の産業が集積しております。改めて数値で述べさせていただきますと、国内の雇用は540万人、全産業の約1割、輸出金額は16兆円、製造業の約2割、研究開発費、設備投資額は、合計で6兆円となります。歴史を振り返りますと、1967年、今から50年ほど前、日産自動車の川又社長が、初代会長を務められました。「自動車産業はお客様や現場に近い」からこそ、自動車工業会の会長は、現役の社長が就任することが多かったのだと思います。私自身、トヨタ自動車の社長を務めながら、日本のために少しでもお役に立ちたい。そういう想いで、今回、会長職を全うしたいと考えております。



新しい正副会長で団結のスクラム

自動車産業の変革期を 「お客様視点」と 「現場に寄り添う視点」で乗り切る

さて、世の中の声に耳を傾けますと、「自動車産業は、今後は安泰とは言えないだろう」という声が、聞こえて参ります。自動車メーカーのみならず、いくつかの産業で、品質管理をめぐる不正が発覚し、世界有数の技術力を誇る、ものづくり大国日本の根底が崩れかけているのかもしれない。ものづくり不信というだけではありません。いたるところで世の中の不信が叫ばれております。また、自動車産業を取り巻く環境は、「電動化」「自動化」「コネクテッド」、第4次産業革命と呼ばれるIoTやAIなどの技術進展により、異業種も巻き込んだ、100年に1度と言われる変革期を迎えております。さらに、日本では、近い将来、環境や渋滞、事故などの問題が、都市化に伴い、一層深刻化する恐れがございます。世界経済のけん引役の不在、保護主義の進展など、為替や輸出に関する不

透明さも増しております。モビリティ社会が、大きく変わっていく中で、自動車産業は存在感を示せるか。次の100年も、クルマ・バイクはモビリティの主役でいれるのか。ライバルも競争のルールも変わってきており、まさに「未知の世界」での「生きるか死ぬかの闘い」が始まっているのだと思います。こうした変化の激しい時代だからこそ、常に原点に立ち戻り、「お客様視点」と「現場に寄り添う視点」を持って、自工会加盟の全14社、オールジャパンでこの難局を乗り越えて参りたいと思います。私自身も、私らしく、現場に一番近い、自工会会長でありたいと思います。



「2つ」の拘り 日本らしきで自動車産業を活性化

日本自動車工業会は、言うまでもなく、日本で生まれ、日本で育てていただいた産業です。日本のお客様に、これからもクルマ・バイクを愛し続けていただくことが、国内の生産台数を支えることに繋がります。一定の国内生産台数があるからこそ、我々は、日本で様々な先進的な「ものづくり」の挑戦を続けることができるのです。国内のマーケットの活性化に向けて、日本の特徴を念頭に、拘っていききたいことが2つございます。

■お客様にとって

クルマ・バイクを購入・保有しやすい環境づくり

1つ目は、お客様にとって、クルマ・バイクを購入しやすく、保有しやすい環境をつくることです。そのためには、我々メーカーが率先して、魅力ある商品の提供に取り組むことはもちろんですが、ご承知の通り、税金

保険代、駐車場代ガソリン代。

クルマ・バイクを保有する上では、多くの費用が掛かって参ります。シェアリングやカーリース、レンタカーなど、保有の形態・乗り方の選択肢も増えてきております。お客様にとっては、何が最適なのか。これまでの常識にとられず、1つ1つチャレンジを重ねていくことが、お客様とクルマ・バイクとの接点を増やすことに繋がって参ります。その結果として、代替のタイミンを早めることにも繋がります。日本には、4輪だけでも、8,000万台近い保有がございます。この特徴を活かせれば、マーケットの活性化は、まだまだ可能だと考えております。本年は、自動車税制改正の論議についても、大きな山場を迎えますが、複雑・過重な自動車関係諸税に終止符を打ち、制度の簡素化、お客様の負担軽減に向けて、取り組んで参りたいと思っております。



■現場力の再徹底を通じたモノづくりの信頼回復

もう1つは、現場力の再徹底を通じて、モノづくりの信頼回復に努めることです。生産現場での「摺り合わせ」や「カイゼン」「匠の技」。現場が「問題や課題を発見」し、「部門を越えた連携・協力」を惜しまず、ものづくりのプロセスの中でインベションを起こしていく。現

場での実践を通じた知恵の積み重ねこそ、まさに日本の強みです。自動運転やAIなど、新しい分野の技術を実用化に落とし込むこれからのステージにおいては、この日本の「現場力」という強みが、最も活きてくると考えております。新しい分野での取り組みでもあるがゆえに、課題も出てくることかと思いますが、何かあれば、決して焦らず、一度、立ち止まる。そして、現地現物で、しっかりと



真因を追求していくことが、日本ブランドの信頼回復に繋がっていくと考えております。また、今後は、海外からの労働者も増え、職場の多様化も進むと思います。だからこそ、「現場力」「現場での人づくり」という日本の強みを先輩方から継承し、大事に育みながら次の世代に伝えて

いくことが重要だと感じております。日本自動車工業会のメンバー1社1社が、それぞれの会社の「らしさ」、ブランドの「らしさ」とは何かを突きつめ、磨きをかけていければ、「日本らしさ」という魅力の向上、ひいては日本全体の競争力の底上げになると信じております。

変革の真価を問うモーターショーへ

■先進のモビリティ社会、「日本」を示す

モーターショーに

2020年、更にはその先に続く「先進モビリティ社会、日本」

への期待感を膨らませていく場

最後になりますが、2年後

の2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催

されます。そして、その前年となる2019年の東京モーター

ショーは、自動車業界としての変革の真価を問う重要なマイル

ストーンであると考えております。具体的な検討は、これか

らではありますが、来年の東京モーターショーでは、未来のモ

ビリティ社会の一端をお見せすること、「真に世界一のテクノ

ロジショー」となり、そして、

貢献できるよう、自動車工業会が一丸となって、全力を尽くし

て参りたいと思います。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い

いたします。ありがとうございました。

ございました。

**自動車業界で
日本の成長に貢献**

副会長

八郷隆弘

(本田技研工業社長)



「100年に1度の大変革といわれる中、豊田会長のもと、オールジャパンの一員、そしてクルマ・バイクファンの1人として、まずは2年後の東京オリンピック・パリンピックに向けて、副会長として豊田会長の想いに全面協力し、自動車産業を盛り上げ、日本の成長に貢献したいと思っておりますので、皆様今後ご声援宜しく御願致します」

**チームワークで
会長を支える**

副会長

西川廣人

(日産自動車社長
最高経営責任者)



「これから2年、また副会長として豊田会長を支えていくというところで、非常に大事な時期に向かっております。これを踏まえて、我々は脈絡をもって仕事をしてきました。そして日本の自動車産業を盛り上げようということ、2019年、2020年と非常に大事な年となります。19年の東京モーターショー、そして20年の東京オリンピック・パリンピックということで、そこに向けて、お客様から見ても分り

やすい盛り上げ方を御覧頂きたいと思いき、またお客様から見ても、よりお買い求めやすい車を使っ、使って頂きやすい税制を、こつこつ意味で大きいマイルストーンになるので、チームワークで豊田会長を支えていきたい」

**イノベーションが
できるように**

副会長

小飼雅道

(マツダ社長)



「これからの自動車産業がイノベーションをリードできるように、豊田会長をサポートしていきたい」

**事業は円滑かつ
効果的に実施**

副会長

永塚誠一



「課題は山積しております。こつこつ進むべき分野、あるいは協調して取り組んでいくべき分野がどんどん増えていき、また複雑になっていくと思います。自工会事業の円滑かつ効果的な実施に向け最大限努力して参りたいと思っております。特に、豊田会長のスピード感にしっかりとついていけるように、最大限努力していきたいと思っております」

裾野の広い 自動車産業らしく、 多彩な顔ぶれが揃う

定時総会後に都内のホテルで懇親会が開かれ、新しく選出された正副会長が招待された自動車関連の団体、企業や政財界の関係者約900人を出迎えました。



金屏風の前で、招待客を出迎える豊田会長をはじめ、八郷、西川、小銅、永塚副会長



豊田章男会長 挨拶

日本の基幹産業として 頑張る

6年前、志賀さんからたすきを受け取ったその後、池さん、西川さんとつないで頂き、本日の理事会におきまして、日本自動車工業会第18代目会長を拝命致しました。

いうまでもございませんが、自動車産業は裾野の広い産業でございます。二輪や商用車を含め、自動車産業には、素材や部品、物流など多くの産業が集積しております。改めて数値で述べさせていただきますと、国内の雇用は540万人で全産業の約1割、輸出金額は16兆円で製造業の約2割を占めます。研究開発費、設備投資額合計で6兆円となります。資源のない日本が持続的に発展し、世界に貢献していくためにも、裾野の広い自動車産業が日本の基幹産業として頑張らなくてはならないと思っております。

一般社団法人 日本自動車工業会 役員名簿 (平成30年5月17日現在)

会 長	○豊田 章男	トヨタ自動車株式会社	代表取締役社長	(非常勤)
副 会 長	八郷 隆弘	本田技研工業株式会社	代表取締役社長	(〃)
〃	○西川 廣人	日産自動車株式会社	代表取締役社長 最高経営責任者	(〃)
〃	小飼 雅道	マツダ株式会社	代表取締役社長	(〃)
副会長・専務理事	永塚 誠一			(常勤)
常務理事	和迺 健二			(〃)
理 事	細井 行	いすゞ自動車株式会社	取締役会長	(非常勤)
〃	片山 正則	〃	代表取締役社長	(〃)
〃	原山 保人	スズキ株式会社	代表取締役副会長	(〃)
〃	鈴木 俊宏	〃	代表取締役社長	(〃)
〃	吉永 泰之	株式会社SUBARU	代表取締役社長	(〃)
〃	○中村 知美	〃	専務執行役員	(〃)
〃	三井 正則	ダイハツ工業株式会社	代表取締役会長	(〃)
〃	奥平 総一郎	〃	代表取締役社長	(〃)
〃	○小林 耕士	トヨタ自動車株式会社	副社長	(〃)
〃	○寺師 茂樹	〃	取締役・副社長	(〃)
〃	佐藤 康彦	〃	専務役員	(〃)
〃	坂本 秀行	日産自動車株式会社	取締役 副社長	(〃)
〃	川口 均	〃	専務執行役員 チーフサステナビリティオフィサー	(〃)
〃	○中畔 邦雄	〃	専務執行役員	(〃)
〃	市橋 保彦	日野自動車株式会社	代表取締役会長	(〃)
〃	下 義生	〃	代表取締役社長	(〃)
〃	倉石 誠司	本田技研工業株式会社	代表取締役副社長	(〃)
〃	○山根 庸史	〃	専務取締役	(〃)
〃	寺谷 公良	〃	執行役員	(〃)
〃	金井 誠太	マツダ株式会社	代表取締役会長	(〃)
〃	古賀 亮	〃	専務執行役員	(〃)
〃	○安藤 剛史	三菱自動車工業株式会社	副社長執行役員	(〃)
〃	山下 光彦	〃	取締役 副社長執行役員	(〃)
〃	松永 和夫	三菱ふそうトラック・バス株式会社	代表取締役会長	(〃)
〃	○ハートムット・シック	〃	代表取締役社長	(〃)
〃	柳 弘之	ヤマハ発動機株式会社	代表取締役会長	(〃)
〃	日高 祥博	〃	代表取締役社長 社長執行役員	(〃)
〃	ヨアキム・ローゼンバーク	UDトラックス株式会社	代表取締役会長	(〃)
〃	村上 吉弘	〃	代表取締役社長	(〃)
理事・事務局長	矢野 義博			(常勤)
監 事	○安田 政秀*	トヨタ自動車株式会社	前 トヨタモーター コーポレーションオーストラリア(株)会長	(非常勤)
〃	○吉田 正弘	本田技研工業株式会社	取締役監査等委員	(〃)
〃	杉山 雅洋	早稲田大学	名誉教授	(〃)

◎印：新任 ※印：6月、常勤監査役に就任予定

2018年 春の叙勲・褒章

【叙勲】元本田技研工業社長の福井威夫氏に旭日重光章

元本田技研工業社長の福井威夫氏が産業振興功勞として5月8日(火)に旭日重光章を受章。

【経歴】

福井威夫氏 (ふくい・たけお) 昭和19年11月28日生

【学歴】

昭和44年3月31日 早稲田大学理工学部応用化学科卒業

【職歴】

昭和44年4月1日に本田技研工業(株)入社、同社取締役、同社常務取締役、同社代表取締役専務取締役を経て、平成15年6月24日に同社代表取締役社長就任。その後、同社取締役相談役、特別顧問を経て現在、同社社友。

【主関係会社】=(株)本田技術研究所代表取締役社長、(株)ホンダ・レーシング取締役社長、ホンダオプティマニューファクチュアリング・インコーポレーテッド取締役社長などを兼務。

【主な民間団体歴】

(社)日本自動車工業会理事、副会長、(一社)日本二輪車普及安全協会会長、東京商工会議所副会頭、(社)日本経済団体連合会理事並びに常任理事、(財)日中経済協会理事、埼玉経済同友会常任幹事、(財)国際交通安全学会評議員、(財)社会経済生産性本部評議員、(財)道路経済研究所理事、NMCA日本二輪車協会理事、(財)日本自動車

研究所理事、(社)自動車公正取引協議会理事、日本商工会議所特別顧問、ASEAN・日本経済協議会日本委員会会長代理、(一社)日本自動車会議所評議員、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会委員。

【賞罰】

- 「平成16年度 全国発明表彰 発明実施功績賞」(二足歩行ロボット大局的安定化制御方法への表彰)
- 「平成17年度 全国発明表彰 発明実施功績賞(電動式ハワーステアリングのモーターアシスト制御方法の発明への表彰)
- 「平成18年度 全国発明表彰 発明実施功績賞」(適応制御を用いた空燃比フィードバック制御方法の発明への表彰)
- 「平成21年度 全国発明表彰 発明実施功績賞」(モンパルML2000の意匠への表彰)



【褒章】元トヨタ自動車副社長の布野幸利氏に藍綬褒章

元トヨタ自動車副社長の布野幸利氏が産業振興功績で5月15日(火)に藍綬褒章を受章。

【経歴】

布野幸利氏 (ふの・ゆきとし) 昭和22年2月1日生

【学歴】

米国コロンビア大学経営大学院経営学修士課程修了

【職歴】

昭和45年4月1日にトヨタ自動車販売(株)入社、同社取締役(昭和57年7月1日、トヨタ自動車工業(株))、同社常務役員、同社専務取締役を経て、平成21年6月に同社代表取締役副社長就任。その後、同社相談役を経て現在、日本銀行政策委員会審議委員。

【主関係会社】=ソシエタ デ ファブリカシジョン デアウトモーレス(株)取締役副会長、キャルティデザインリサーチ(株)取締役副社長、クオリティポートプロセサズ(株)取締役会長、トヨタロジスティックサービス(株)取締役社長、トヨタモーターノースアメリカ(株)取締役会長、米国トヨタ自動車販売(株)取締役社長、米国トヨタメキシコ投資

(株)取締役社長、トヨタパーソネルサービスU.S.A(株)取締役社長、(株)国際経済研究所代表取締役、TMAP-EM取締役会長などを兼務

【主な民間団体歴】

(社)日本自動車工業会理事、同会国際委員会副委員長、同会常任委員会副委員長

【その他法律に基づく委員歴等】

日本銀行 政策委員会 審議委員



自動車メーカーなど45社が出展 展示車両はレーシングカーなど60台以上



「モータースポーツジャパン2018 フェスティバル イン お台場」が4月14日(土)に東京お台場で開催。例年は2日間の開催ですが、今年は荒天の予報があり、安全性の観点から開催は土曜1日のみ、1時間30分短縮しましたが、約4万5000人が訪れるなど、盛況のうちに終了。会場には自動車メーカーやカー用品メーカーなど45社が出展。展示車両も60台以上が集まり、車やモータースポーツの魅力进行PRしていました。

コンセプトは「見て、聞いて、体感する」。競技会場に足を運ばなければ見られないレース参戦車両や貴重なヒストリックカーなどが、メーカーの垣根を越えて間近で見ることができました。都心から近いお台場での開催で、レース会場と比べてアクセスも良いため、車好きから家族づれまで幅広く集客していました。また、貴重なレーシングカーやその走りを、楽しめることも人気の要因で、特設コースではレーシングカーのドリフトやカートレースなど、迫力ある走りを間近で体験することができました。

■見て、聞いて、体感する

イベントは、「アクティブゾーン」「エクスペリエンスゾーン」「カルチャー&レジエンドゾーン」の3つのエリアに分けて展示。自動車メーカーが出展する「アクティブゾーン」では、各メーカーがブースでモータースポーツへの取り組みを紹介した。過去のレース参戦車両や市販車のカスタマイズモデルなども並べ、憧れのレーサーらによる



トークショーも開かれました。特設走行エリアでは、日野自動車のレーシングトラックのデモ走行や、東洋コム工業によるドリフトのデモンストレーションを実施。さらに、アウディやBMW、メルセデスベンツの3社による同乗デモランも行われ、抽選



で「Audi RS 3 LMS」や「BMW i3」「Mercedes AMG GT R」にプロドライバーと同乗することができました。

■さまざまな体験催し

「エクスヘリエンズゾーン」では「ふれあい試乗会」でスーパーカー試乗や、「みんなの楽ラク運転講習会」で急ブレーキ体験など、さまざまな体験型の催しを開きました。「カルチャー&レジェンドゾーン」では、レプリカカーやヒストリックカーを展示しました。

モータースポーツイベントという点、マニアのファンが多いと思われるのですが、入場料無料で、都心のイベントで気軽に立ち寄れることもあり、ここ数年、来場者は2日間で10万人を超えています。今回は風雨の予報を受けて2日目の15日は中止に、14日も一部コンテンツを中止して、約1時間30分早い15時30分頃に終了。それでも会場には4万4917人が訪れるなど活況でした。

《自動車メーカー8社のブース紹介》

SUZUKI

アウトドアに似合う新型車



アウトドア人気の「クロスビー-HYBRID MZ1」

担当者
コメント

経営企画室 広報部
東京広報課 係長
小林 大祐

こはやし・だいすけ氏

「消費者のニーズが、アウトドアなどの体験に変化しており、車で出かけることの楽しさを伝えたい。この目的で出展。最近ではテレビコマercialやWeb動画、SNSでイベント告知なども行っています。特にSNSは若い人が多く使っていることから、キャンペーン紹介なども活用するほか、今回のブースの様子も紹介。今後ツイッターやフェイスブックなども上手く活用して、多くの方にアプローチしていきたいです」

SUBARU

「スバル360」発売から60周年



86/BRZ Race出場の「BRZ」

担当者
コメント

国内営業本部 マーケティング推進部
宣伝課長
米田 和雄

よねだ・かずお氏

「今回は新旧のスバルの取り組みを知ってもらう場になりました。PRブースでは最近の車両を中心に展示したほか、STIのパーツも紹介し、よりスバルを身近に感じてもらえたいと思います。企画展示は、今までの感謝を含め、これまで開発してきた車両をそろえました。特に360は、今の人にはかわいい車に見え、昔から知る人にはとても思い出深いものだと思います。今後も車がある豊かな生活を伝えていきます」

TOYOTA

レース出場車両を中心に展示



世界ラリー選手権で活躍する「ヤリス WRCレプリカ」

「私たちはモータースポーツから得た知見を生かして「もっと良いクルマづくり」に取り組んでいます。レースを知ってもらおうことで、トヨタをより身近に感じてもらいたい。最近ではSNSでイベントの告知などを行い、広く情報を伝えていきます。このイベントはお台場という都市部からも近いイベントなので、多くの方が訪れやすい環境です。レーシングカーの Cockpit への同乗や展示車を通じ、より親しみを感じてもらえたらと思います」

担当者
コメント

澤立紀 (さわ・たつり) 氏
GAOO Racing Company GRドライバー兼
マーケティング室 1クループ 主幹

NISSAN

レース車両から市販車まで



2016年まで使用された「MOTUL AUTECH GT-R」

「モータースポーツから市販の乗用車まで幅広く展示し、車それぞれの楽しさをアピール。ブースではスーパーGTの選手達がトークショーだけでなく、タイヤ交換を行うというイベントも行い、多くの方に楽しんでいただけました。またGT-Rなど、名前は知っていても普段なかなか乗ることのできない車に触れてもらえる場にもなったと思います。私たちが車を身近に感じてもらうためにイベントを展開。小さな頃から触れ合うことで、将来、車に乗りたいたいと感じてもらいたいです」

担当者
コメント

福永洋輔 (ふくなが・ようすけ) 氏
日本マーケティング本部
ブランド&ステータ戦略室

HINO

“ド迫力”のトラックデモ走行



デモ走行では白煙を巻き上げて走った

「今年のダカールラリーに参戦した現役の車両を展示し、その迫力を、大勢の方に見ていただきました。トラックレースはまだ認知度が低いため、実際に運転席に座ってみると、車の高さや中の構造に驚かれた方が多かったです。ただ最大の魅力は走る姿。ブースの展示だけでなく、実際にデモ走行も行いました。国内ではなかなか見ることができないだけに、その力強い走りに、見学者の方々は驚かれました」

担当者
コメント

岡田実穂 (おかた・みほ) 氏
日野自動車 渉外広報部 広報室
企業PRクループ

HONDA

トロロッソ・ホンダのF1マシンを展示

「2輪と4輪をそれぞれ紹介し、幅広い方にレースへの取り組みなどをアピール。特に若い世代の方が関心を寄せていました。最近、SNSを使って活動の模様をお伝えしていますが、こうした中で感じるのは、依然、若い人で車に憧れを持っている方が多いということです。イベントに多く足を運んでくれる方も多く、今後さまざまな発信を続けて行きます。また、モータースポーツを通じて、より一層、車を楽しんでもらいたいです」

ブース担当者
コメント

ブランド・コミュニケーション本部 広報部
商品・技術広報課 シニアエキスパート
松本 総一郎 (まふもと そういちろう) 氏



今シーズンからトロロッソとタッグを組み
「レッドブル Toro Rosso STR13(プロトタイプ)」

MAZDA

街中でも走れるレース車両を展示

「お客様自身の愛車でモータースポーツに参加いただくことができるベース車を展示しています。当社は基礎的な運転訓練を行うイベントを行い、改めて一般の人にクルマを動かすことの楽しさを伝えています。ディーラーでも正しいドラボジのレクチャーを実施するなど、ユーザーに好評です。若い人から年配の方まで幅広い方が訪れています。こうした場所でマツダ車に触れてもらい、マツダのファンを増やしたいです」

ブース担当者
コメント

広報本部 国内広報部
国内商品グループ アシスタントマネージャー
藤井 智香 (ふじい ともか) 氏



ロードスター NR-A (バーティレース仕様)」を展示

MITSUBISHI MOTORS

斜面角度45度登坂の体験

「私たちは世界ラリー選手権への参戦を続け、そこで得た様々な経験を4WDやSUVなどの開発に生かしています。ただ一般の路面ではどんな技術が使われているのかが伝わりづらい。そこで普段は絶対に走らないようなコースを設置して、走破性や乗り心地を体験してもらうことに取り組んでいます。もしドライブなどに出かけたとき、自分の乗っている車が本当は急な斜面でも走れることが分かる、走っていて心強いです。三菱車はどこにでも出かけたくなる相棒になります」

ブース担当者
コメント

広報部
商品広報担当 主任
田中 直哉 (たなか なおや) 氏



普段は体験できない傾面角度45度の走行体験

AIは自動運転に不可欠 出展会社は 前回の2倍、300社

人工知能(AI)の最新技術や活用手法などを紹介する展示会「第2回AI・人工知能EXPO」(リードエグジビションジャパン主催)が4月4日から6日まで東京ビッグサイトで開催されました。AIは、自動車分野では自動運転をはじめ生産管理、需要予測、接客など、さまざまな分野で活用が期待されています。こうした中で、今回の展示会は昨年6月の初開催と比べ出展者が約2倍の300社、展示面積が約3倍に拡大。来場者が4万6000人を超えるなど、AI関連ビジネスがますます活発になった様子が浮かび上がりました。

交通・運行管理が目立つ

展示会でAIの活用提案が目立ったのは、交通・運行管理の分野です。乗客の要望に応じた運行ルートや乗降場所を柔軟にアレンジするモビリティサービス「AI運行バス」を紹介。複数の利用者がリクエストした乗降車の希望位置をAIがリアルタイムに分析し、最適なルートを算出することによって利便性向上と効率的な運行の両立を図るサービス、会津若松市内で実証試験を実施しました。採算性の問題で公共交通の維持が困難になった地域でも「AIの活用で効率的な運行が可能になります」とのことです。

方向から来てどちらに向かったのか」を最大12方向・10秒単位で分析できます。スムーズな交通流の実現に向けた信号制御の組み立てに活用を提案するほか、将来的にはリアルタイムの交通管制システムへの適用を図り、渋滞解消に役立てたいとしました。

自分の声で操作、検索

エンターテインメント関連では、自分の声で音楽プレーヤーの操作やネット検索の指示ができる「AIスマートウェアアプリ」が展示され、さらに、検索結果を音声で読み上げる機能も盛り込み、運転中にハンズフリーで安全に使用できるようになっています。

AIと画像認識技術を組み合わせて、工場の品質管理を高度化する提案も目立ちました。ドローンに搭載したカメラが密漁を監視する画像認識AI「ディーブテクター」を応用して、製品のキズや汚れを確認する技術を披露していました。

また、ディファレンシャルギアの生産で活用しているAI検査



コミュニケーションロボットはじめ、最新機器のデモンストレーションを通じAIの実力と可能性をアピール



武蔵精密は、目視で行っていたデフ・ギアの品質検査を自動化したAI画像検査システムを公開



センスタイムの交通流解析システム。最大12方向の交通の流れを10秒置きに車種別に解析

AIの開発運用を手がける中国の企業が、映像で交通流を解析するサービスを初公開しました。交差点をはじめ路上に設置したカメラでトラック、乗用車、歩行者などの動きをつかみ、それぞれが「どの



AI関連ビジネスの活発化にともない出展者が前回の2倍に拡大、4万6000人超が来場するなど注目を集めた

技術が公開されていまし
た。加工が完
了したギアの
画像をA-Iで
分析し、目視に
頼っていた品質
確認を効率化
したそうです。
今後は「検査で
蓄積したビッグ
データを製品開
発や生産技術の
高度化にも役立
ていきます」とし
ました。

■A-Iエンジニア 育成が必要

A-Iは活用が急
速に進む一方で、こ
れを正しく使いこな
せる人材が不足して
います。こうした状
況をにらみ、A-I関連
エンジニアの育成支援
を提案する展示も活
発でした。
その一つが日本
ディーラーニング協

会（松尾豊理事長＝東京大学大
学院工学系研究科特任准教授）
の「ディーラーニング検定試
験」。昨年スタートしたもので、
エンジニアのプログラミング能
力や、経営者、企画担当者の理解
度をチェックする試験を提供し
ています。

■講演ではA-Iの可能性が

また、展示と同時に行われた
基調講演では、自動運転による
交通事故の減少、トラック、バス
などのドライバー不足解消、工
場における生産システム不具合
の事前察知など、A-Iの進化が
もたらす様々な可能性が示され
ました。

登壇した大崎真孝氏は「A-I
は人手不足問題の解決や、新し
いアイデアで人を楽しませ、人
を健康にし、ショッピングをパー
ソナルにして新たな価値を創造
していきます。中でも日本では
ものづくりの現場でA-Iが活
躍するでしょう」と、A-I発展
の可能性を強調しました。
ただ、A-Iは高度な機能を有
する一方、複雑なシステムとなっ
ており、A-Iによる判断・制御の



会場では基調講演や無料セミナーを随時開催、多くの参加者を集めた

理由が「ブラックボッ
クス化」して特定の人
にしかわからなくな
ることが心配されて
います。さらに、A-Iを
犯罪に悪用するケー
スが懸念されます。

■法務トラブルの相談にも

こうした状況を受けて、A-I
の活用拡大にともない想定され
る法務トラブルを解説するプー
スを、東京弁護士会のリーガル
サービスジョイントセンターA
I部会が出展しました。A-Iが
かかわる自動運転車の事故や詐



自動販売機のショーケースに映し出されるアニメ・キャラクターとお話できるAI自動販売機。ディーラーの自動接客システムなどへのノウハウ展開が期待される



オンキヨー&ハイオミテはAIスマートウェアラブルとして首輪型AIスピーカーを開発、運転中にハンズフリーで使用可能

欺などの刑事事件における責任
の所在をはじめ、A-Iで作成し
た著作物の権利保護などさま
ざまな事例を提示。これらのよ
うな法務上のテーマを通じて、
利便性の高いA-Iを安全に社会
や生活で役立てていくには、技
術の進化のみならず、活用上の
ルール、コンセンサスの確立が急
務となっていることを訴求しま
した。

●シニアドライバースクールは、高齢移行期(50～64歳)を含む高齢ドライバー(免許取得後1年以上の方)を対象とし、高齢者の身体機能や運転特性に応じたカリキュラムにより、自らの運転を振り返り、安全運転に繋げていくことを目的に平成8年度より開催しています。昨年度は651名が参加し、これまでの参加者数は約9,000名に上っています。

●カリキュラムの内容は、高齢者に多い事故の防止に役立つ衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置などの体験ができるASV体験、運転の基本の確認を始めとして信号システムを利用した急ブレーキ体験、見通しの悪い交差点における安全な通過方法、他のドライバーの運転行動を映像で観察して自身の運転を振り返ることなど、高齢者の交通事故防止に有効なプログラムを実施するなどとなっています。

●今年度は平成30年5月12日(土)から全国48会場で順次開催します。

【平成30年度 シニアドライバースクール企画案】 (開催概要)

主催：一般社団法人 日本自動車工業会(JAMA)
 一般社団法人 日本自動車連盟(JAF) 一般財団法人 全日本交通安全協会
 後援：国交省、警察庁、都道府県警察本部、都道府県交通安全協会他(予定)
 趣旨：高齢社会となった現状を踏まえ、高齢者(シニア)および高齢移行期の50歳以上のドライバーを主な対象に、実践的な教育プログラムで講習会を開催し、交通安全に寄与すると同時に、安全運転の重要性を広く社会に喚起する。
 開催日程：平成30年5月から平成31年1月までの間、全国48会場で順次開催予定
 (※平成30年4月現在)
 参加資格：50歳以上の普通自動車免許所持者 但し、免許取得後1年以上の方
 募集人数：各会場15名～30名(応募者多数の場合は抽選)*会場によって一部異なる
 使用車両：参加者の自家用乗用車(3・5・7ナンバーの任意保険加入車・ABS付車両に限る)
 講習時間：全日コース 約6時間(食事含む)、半日コース 約4時間
 参加料：JAFおよび交通安全協会会員
 全日コース 2,057円(税込)、半日コース 1,028円(税込)など
 申し込み方法：WEB受付・電話・FAX・メール等
 主な講習内容：◆運転の基本の確認(クルマの点検・運転姿勢・車の死角確認)◆信号を使った反応ブレーキ(急ブレーキ～空走距離の測定)◆見通しの悪い交差点の安全な通過方法(多段停止安全確認の習得)◆ASV(先進安全自動車)の理解(体験などを通じた機能の正しい理解)

2018年度「シニアドライバースクール」開催計画

No.	地方本部	主催支部	開催予定日	曜日	会場	全・半日別
1	北海道	札幌①	7月21日	土	札幌運転免許試験場 1回目	半日
2		釧路	7月29日	日	星が浦自動車学校	半日
3		札幌②	8月18日	土	札幌運転免許試験場 2回目	半日
4		帯広	9月9日	日	おびひろ自動車学校	半日
5		北見	9月23日	日	北見運転免許試験場	半日
6		旭川	9月30日	日	北海道クマイ自動車学校	半日
7	東北	宮城	6月2日	土	グランディ・21 宮城県総合運動公園	半日
8		福島	6月9日	土	福島県警察郡山運転免許センター	全日
9		山形	7月21日	土	山形県総合交通安全センター	半日
10		岩手	8月25日	土	岩手県自動車運転免許試験場	全日
11		秋田	9月15日	土	秋田県警察運転免許センター	半日
12		青森	10月20日	土	青森県運転免許センター	半日
13	関東	茨城	7月14日	土	茨城県警察運転免許センター	全日
14		栃木	7月22日	日	栃木県運転免許センター	全日
15		群馬	9月8日	土	群馬県総合交通センター	半日
16		長野	10月6日	土	中南信運転免許センター	半日
17		新潟	10月14日	日	新潟県運転免許センター	全日
18		神奈川	10月17日	水	鴨居自動車学校	半日
19		東京	10月24日	水	葛西橋自動車教習所	全日
20		千葉	11月24日	土	千葉幕張免許センター	全日
21		埼玉	1月31日	木	埼玉県トラック総合教育センター	全日
22		中部	愛知	5月20日	日	茶屋坂自動車学校
23	三重		6月24日	日	四日市自動車学校	半日
24	静岡		9月22日	土	県警中部運転免許センター	半日
25	愛知		11月11日	日	東山自動車学校	半日
26	関西	京都	5月12日	土	京都府交通安全協会自動車練習場	半日
27		大阪	5月23日	水	舞洲スポーツアイランド	半日
28		滋賀	5月29日	火	月の輪自動車教習所	半日

No.	地方本部	主催支部	開催予定日	曜日	会場	全・半日別
29	関西	和歌山	7月27日	金	和歌山県第二試験場(田辺市)	全日
30		大阪	9月11日	火	関西自動車学院	半日
31		和歌山	10月20日	土	和歌山県運転免許試験場	半日
32		奈良	10月22日	月	橿原中央自動車学校	半日
33		兵庫	11月10日	土	明石運転免許試験場(予定)	半日
34		京都	11月24日	土	京都府交通安全協会自動車練習場	半日
35		鳥取	6月23日	土	イナバ自動車学校	全日
36		島根	6月30日	土	島根県運転免許センター	半日
37	中国	広島	7月8日	日	広島モーターズスクール	半日
38		山口	9月8日	土	山口県総合交通センター	半日
39		岡山	11月7日	水	岡山県トラック協会練習場	半日
40	四国	香川	9月9日	日	ハッピードライビングスクール	半日
41		愛媛	9月22日	土	愛媛県運転免許センター	半日
42		徳島	10月20日	土	徳島県運転免許センター	半日
43		高知	10月20日	土	高知県運転免許センター	半日
44	九州	大分	5月27日	日	大分県自動車学校	全日
45		福岡	9月10日	月	東福岡自動車学校	半日
46		熊本	9月16日	日	八代ドライビングスクール	半日
47		長崎	10月28日	日	浦上自動車学校	半日
48		熊本	11月12日	月	KDS熊本ドライビングスクール	半日

お問い合わせ先

開催日程・会場等の確認はJAFホームページをご参照ください。

●セーフティトレーニング

<http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/safetytraining/index.html>

●シニアドライバースクール

<http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/senior/index.htm>

北海道から沖縄までの全国79会場で開催 交通事故防止に有効な参加体験型の安全運転実技講習会

各会場別に
参加者募集

一般社団法人日本自動車工業会(以下 JAMA)は、一般社団法人日本自動車連盟(以下 JAF)及び一般財団法人全日本交通安全協会(以下全安協)との共催で、警察庁、国土交通省、都道府県警察本部、都道府県交通安全協会の後援を得て、今年度も一般のドライバーを対象とした“JAMA/JAF/全安協 セーフティトレーニング”と50歳以上のベテランドライバーを対象とした“JAMA/JAF/全安協 シニアドライバースクール”を、北海道から沖縄までの全国79会場で開催します。JAMAは、政府の掲げる「世界一安全な道路の実現」を目指し、両講習会を通じて安全運転の啓発と交通事故防止に努めてまいります。

JAMA/JAF/全安協 セーフティトレーニング

- セーフティトレーニングは、普通運転免許取得後1年以上の方を対象として、安全運転に欠かせない運転の基本操作「走る・曲がる・止まる」、「見る・判断する・操作する」を実際の運転を通じて再確認し、安全運転技能の向上を図ることを目的に平成30年度より開催しております。昨年度は511名が参加し、これまでの参加者数は約14,500名に上っています。
- カリキュラム内容は、運転の基本の確認を始めて、スラローム走行、ブレーキ体験、危険からの回避体験、ASV*の体験など、実際の交通場面に対応した内容となっています。
- ASVの体験については、衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置などの体験講習を行います。
- 今年度は平成30年5月19日(土)から全国31会場で順次開催します。

*ASV(Advanced Safety Vehicle)：先進安全自動車

【平成30年度 セーフティトレーニング企画案】〈開催概要〉

主催：一般社団法人 日本自動車工業会(JAMA)
一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)
一般財団法人 全日本交通安全協会

後援：国交省、警察庁、都道府県警察本部、都道府県交通安全協会他(予定)

趣旨：クルマの特性と性能の限界、ドライバーの特性や能力などの理解を通じ、実践的な安全運転技能の向上を図るとともに、安全運転の重要性を広く社会に喚起する。

開催日程：平成30年5月から平成30年11月までの間、全国31会場で順次開催予定(※平成30年4月現在)

参加資格：普通自動車免許所持者で免許取得後1年以上の方
但し、未成年者は親権者の承諾が必要

募集人数：各会場15名~30名(応募者多数の場合は抽選)
*会場によって一部異なる

使用車両：参加者の自家用乗用車(3・5・7ナンバーの任意保険加入車：ABS付車両に限る)

講習時間：全日コース 約6時間(食事含む)、半日コース 約4時間

参加料：JAFおよび交通安全協会会員
全日コース 3,086円(税込)、
半日コース 1,028円(税込)など

申し込み方法：WEB受付・電話・FAX・メール等

主な講習内容：◆運転の基本の確認(クルマの点検・運転姿勢・車の死角確認)◆ストレートスラローム(ハンドル操作と内輪差の確認、正しい目線の置き方の習得)◆信号を使った反応ブレーキ(急ブレーキ~空走距離の測定)◆滑りやすい路面でのブレーキ体験(急制動の体験)◆危険からの回避(とっさの危険回避体験を通じ、人間としての特性を理解)◆ASV(先進安全自動車)の理解(体験などを通じた機能の正しい理解) ※会場によって内容は異なる

2018年度「セーフティトレーニング」開催計画

No.	地方本部	主催支部	開催予定日	曜日	会場	全半日別
1	北海道	函館	9月2日	日	函館中央自動車学校	半日
2	東北	福島	10月13日	土	エビスサーキット	全日
3		宮城	10月27日	土	グランディ・21 宮城県総合運動公園	半日
4	関東	東京	5月26日	土	東京サマーランド	全日
5		新潟	6月24日	日	新潟県運転免許センター	全日
6		神奈川	7月4日	水	鴨居自動車学校	半日
7		茨城	8月25日	土	茨城県警察運転免許センター	全日
8	関東	千葉	9月1日	土	千葉幕張免許センター	全日
9		群馬	9月9日	日	群馬県総合交通センター	全日
10		埼玉	9月29日	土	埼玉県トラック総合教育センター	全日
11		長野	10月7日	日	中南信運転免許センター	全日
12		栃木	11月11日	日	栃木県運転免許センター	全日
13	中部	静岡	5月26日	土	県警中部運転免許センター	全日
14		愛知	6月16日	土	キョウセイ交通大学	全日
15		岐阜	9月23日	日	日本ライン自動車学校	半日
16		石川	10月28日	日	石川県運転免許センター	半日
17	関西	福井	11月4日	日	福井県運転者教育センター	半日
18		大阪	5月22日	火	舞洲スポーツアイランド	全日
19		奈良	6月10日	日	葛城自動車学校	半日
20		京都	9月8日	土	京都府交通安全協会自動車練習場	半日
21		兵庫	10月13日	土	明石運転免許試験場(予定)	半日
22	中国	滋賀	10月30日	火	月の輪自動車教習所	半日
23		岡山	9月2日	日	岡山県運転免許センター	全日
24	四国	広島	10月28日	日	広島県運転免許センター	全日
25		香川	5月19日	土	ホンダセーフティトレーニングセンター四国	半日
26	九州	福岡	6月19日	火	八幡自動車学校	半日
27		佐賀	9月下旬	-	未定	半日
28		宮崎	10月8日	月	宮崎県総合自動車運転免許センター	全日
29		熊本	10月14日	日	セミコンテクパルク内特設会場	全日
30		鹿児島	10月13日	土	鹿児島県運転技能向上センター	半日
31	沖縄	11月23日	金	未定	半日	

2017年度の福祉車両の販売台数

2017年度における福祉車両の販売台数は、 合計で43,494台、前年度比97.8%となりました

需要の主力である「車いす移動車」に関しては、軽自動車が11,444台と前年度を3%上回り、普通・小型自動車も、14,455台(99.7%)とほぼ前年度並みの水準を維持しました。

軽自動車については、各社の新型車投入効果により「昇降シート車(2,748台：前年度比110.3%)」「回転シート車(254台：前年度比131.6%)」においても、前年度を上回るなど全体的に好調に推移しましたが、普通・小型自動車が「車いす移動車」以外で伸び悩んだため、全体では前年度を下回る結果となりました。

〔車種別販売状況〕

(1) 普通・小型自動車 23,040台 (前年度比94.5%)

●福祉施設等の需要が多い「車いす移動車」や「送迎車」については好調に推移しましたが、個人需要が多い、「昇降シート車」や「回転シート車」は前年度を下回りました。

(2) 軽自動車 14,446台 (前年度比104.7%)

●相次ぐ新型車投入効果により、「車いす移動車」「昇降シート車」「回転シート車」全ての区分において前年度

を上回り、軽自動車全体でも3年ぶりに前年度比4.7%の増加となりました。特に個人需要が多い「回転シート車」「昇降シート車」は二桁の伸びとなり、軽自動車全体の需要を押し上げました。

(3) バス 6,008台 (前年度比95.2%)

●乗合バスのバリアフリー化施策によるノンステップバスへの代替需要は一段落したものの、2016年度に続いて6,000台超えとなり、高水準で推移しております。

年度別販売台数推移

(台)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
普通・小型自動車 (前年度比)	24,366 (97.0%)	25,004 (102.6%)	23,398 (93.6%)	24,380 (104.2%)	23,040 (94.5%)
車いす移動車	13,196	14,013	13,525	14,493	14,455
昇降シート車*	10,209	10,065	7,454	6,217	5,451
回転シート車	-	-	1,552	2,838	2,245
運転補助装置付車	471	552	427	370	264
送迎車	490	374	440	462	625
軽自動車 (前年度比)	15,471 (110.2%)	18,560 (120.0%)	15,837 (85.3%)	13,796 (87.1%)	14,446 (104.7%)
車いす移動車	12,954	14,487	12,705	11,112	11,444
昇降シート車*	2,474	4,055	2,848	2,491	2,748
回転シート車	-	-	273	193	254
運転補助装置付車	43	18	11	0	0
その他	0	0	0	-	-
バス (前年度比)	4,352 (109.9%)	4,305 (98.9%)	5,510 (128.0%)	6,308 (114.5%)	6,008 (95.2%)
総合計 (前年度比)	44,189 (102.5%)	47,869 (108.3%)	44,745 (93.5%)	44,484 (99.4%)	43,494 (97.8%)

(注)

1. 自工会会員メーカーとして把握できる販売台数を集計したもので、ユーザーが直接架装メーカーに持ち込み改造したものは集計されていない。

※「運転補助装置付車」の市場は自工会会員メーカーとして把握できていない架装メーカー扱いのものを含めると年間5千台程度と推定される。

2. 車種区分は、自工会にて福祉車両としての装備を基準に分類したため、道路運送車両法の区分とは異なる。

(1)「バス」：マイクロバスを含む。

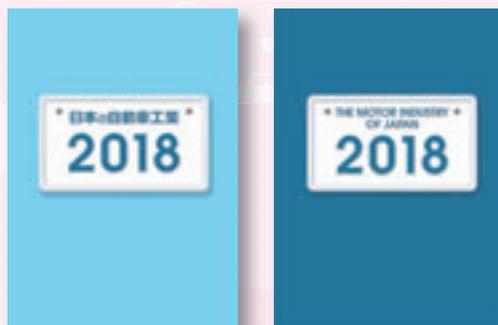
(2)「普通・小型車」：乗用車と商用車(バンタイプ)を含む。

(3)2015年度集計より、昇降シート車と回転シート車を分けて集計。2014年度までは昇降シート車実績に回転シート車の実績を含む。

(4)2016年度集計より、実態に即して、普通・小型自動車の「その他」は「送迎車」とし、数値計上実績がない軽自動車の「その他」は削除とした。

自工会 最新刊行物のご案内

日本の自動車工業2018 年刊(日本語版／英語版)



概要 ▶ 日本経済を支える基幹産業である自動車産業への理解促進を図ることを目的に、日本における自動車産業の位置付け、生産・販売・保有・輸出等の統計データおよび安全・環境対策、自動車関係諸税、海外展開状況等を分かり易く解説。

構成 ▶ ① 自動車産業：関連産業・就業人口／資材・設備投資等／製造品出荷額等／貿易額
② 四輪車：生産／販売／輸入車販売／中古車販売／保有・普及率／輸出／仕向地輸出
③ 二輪車：生産／販売／保有／輸出／仕向地輸出
④ 自動車と社会：交通安全／ITS・ASV／自動運転／中長期モビリティビジョン／東京モーターショー環境対策／自動車関係諸税／免許保有／福祉車両／自動車輸送・自動車関税率
⑤ グローバル展開：海外生産／海外生産台数／資本・業務提携
⑥ 世界：生産／四輪車販売／保有・普及率／輸出
⑦ 制度：自動車の分類／測定モード／基準認証制度
⑧ その他：日本の自動車工場分布図／自工会会員／自動車関係団体

発行日 ▶ 2018年5月17日

体裁 ▶ A4判、72頁、オールカラー

定価 ▶ 一部800円(税込み・送料別途)

お申込み方法

① 郵送

● 以下をご記載の上、自工会広報室までFAX(03-5405-6136)にてお申し込みください。

- (1) 冊子名(何年版かもお書きください)
- (2) 日本語版 or 英語版
- (3) 部数
- (4) 送付先(郵便番号、ご住所、お名前、電話番号)

※冊子のご送付後、別途、冊子代および送料の請求書を郵送させていただきます。

※お申し込みからお届けまで1週間～2週間程度かかります。

お急ぎの場合は、広報室(TEL：03-5405-6119)までご相談ください。

② 直接購入

● 自動車図書館

(港区芝大門1-1-30 日本自動車会館1階 TEL：03-5405-6139)にて販売しております。

※販売時間は平日9:30～16:00となります。

ローランド・ベルガー代表取締役社長



ながしま さとし
工学博士 長島 聡氏

ユーザーや社会が主役の電動化をみんなで作る

CASE*という破壊的なトレンドが日々のサービスで大きく取り上げられていく。10年後の悲観的な未来を嘆く論調も多い。ただ、自動車業界に身を置くものとしては、納得がいかない。未来を作るのは我々だし、明るい未来にしていけるのも我々だし。CASEという新たな技術を楔子にもつと車が社会で動き回り、様々な人やモノの移動に貢献している世界。日本のチーム力を最大限に活かしてこんな世界を生み出していきたい。

■消費戦になるのでは...

ゼロエミッション規制の中国への導入、各国でのCO₂規制の強化が目前に迫る中、完成車メーカーや新興メーカーが電動化車両の開発にしのぎを削っている。EVはもちろんのこと、フルHV、PHV、欧州発の48VマイルドHV、FCVなど、開発対象の技術は増えるばかりだ。電池メーカーもエネルギー密度の向上、寿命の延長、低価格化、充電時間の短縮、更には異次元の規模拡大といった様々な課題に挑戦している。こうした競争や挑戦を否定しないが、少し懸念もある。このままでは消耗戦に突入しないだろうか。リソースには限りがある。それぞれの思考で個別に電動化にチャレンジするの

ではなく、ユーザーや社会の価値に立脚したありたい姿をみんなで考えるべきではないだろうか。対話を通じてみんなの足並みを揃えていけば、成果を生み出すスピードや確率が高まると思う。

そのためには、ありたい姿の仮説が必要だ。私だったら、自由な移動を今以上に増やして、同時に車の魅力や価値も高めたい。電動化によって、環境負荷は下がったものの、移動単価があがり移動量が減ったり、車の魅力や価値が下がったりしては元も子もない。したがって、電池性能の向上を見据えながら、広い視野でそれぞれの地域や利用シーンに合わせてバリエーションを選択して、車の所有や利用に纏わる価値を高めていきたい。移動にとどまらず、異業種も巻き込み、地域単位でユーザーや社会の価値を高めていく。

■地域や利用でバリエーション

EVは、車が密集する大都市で空白を保つために有効なバリエーションである。ただ、ガソリン車と同じ航続距離を目指す、所有でもシェアリングでも高い移動単価となる。電池寿命が車体寿命より短い故の低い残価を考えるとなおさらだ。したがって、EVは都市内シェアリングサービスで利用したい。3年で寿命を迎える車体を新たに開発して、3年で車を入れ替える。電池の搭載量は必要最低限、電

池のリサイクルビジネスも準備しておけば、実質の移動単価を安くできる。

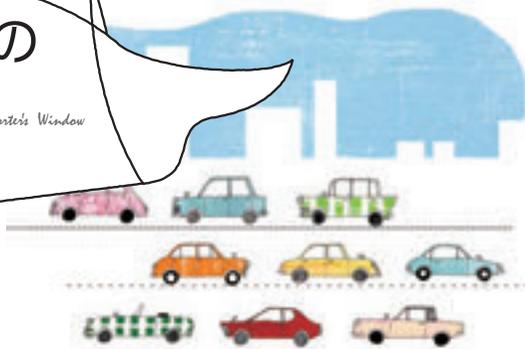
HVは、移動単価を上げずに環境負荷を低減できる頼れる存在だ。様々な地域で所有前提の移動量を支えてくれる。特に日本のフルHVは欧州の48VマイルドHVに比べてコスト効果が高いので、社会のサービスにマッチする。官民が一体となつて、世界展開に再挑戦して欲しい。一方、FCVは、台数密度を高めたエリアで、車以外の水素用途も創出し、小さなエコシステムを一つずつ生み出していく。比較的容易に経済性が担保できる余剰水素のあるエリアで始める。充填力は半分に、航続距離より経済性を優先する。バランスの妙を極めるイメージだ。

■対話を始めてほしい

これらはまだまだ仮説の仮説にすぎない。具体的に地域を選定して、みんなで対話を始めて欲しい。そうすれば、みんなの生み出した姿が纏まり、実践に入れる。紆余曲折の末、成果が生まれたら、次は横展開を考える。類似の地域は必ず見つかる。そこには必要最低限のカスタマイズで成果をコピーペーストする。これを繰り返す。意外と早く社会を変えていくのではないだろうか。

*C(コネクタ) A(自動運転) S(シェア&サービス) E(電気自動車)

profile 早稲田大学理工学研究科博士課程修了後、早稲田大学理工学部助手、ローランド・ベルガーに参画。自動車、石油、化学、エネルギー、消費財などの製造業を中心として、グランドストラテジー、事業ロードマップ、チェンジマネジメント、現場のデジタル武装など数多くのプロジェクトを手がける。特に、近年はお客様起点の価値創出に注目して、日本企業の競争力・存在感を高めるための活動に従事。経済産業省「自動車新時代戦略会議」委員など政府関係委員を歴任。



時事通信社

いそべ あつこ
磯部 敦子

車を所有した我が家……………

④ 親で暮らしていた頃、夜景目当てにドライブすることがささやかな楽しみだった。いわゆる「マイカー」が我が家に登場したのは筆者が浪人中で、息抜きと称して父親に連れ出してもらっていた。食べ物を買込み、堺にある実家から大阪の夜景が見える通称「めがね橋」(千本松大橋、大阪市西成～大正区間)を目指すのが定番コースだった。

⑤ もともと我が家に車はなく、必要な時は父親が仕事で使う車を借りるか、レンタカーを利用するまで補っていた。車がなくても特に問題はなかったが、近所の友人家族数軒と旅行する際は車での移動だったため、子供心に車のある家に憧れた。車の購入が決まった時は望外の喜びだった。購入には至らなかったが、当時よく見たアダムファミリー出演のホンダ「オデッセイ」のCMは今でもよく覚えている。

⑥ 昨年、自動車業界は100年に一度の大変革期の真っただ中と言われ、その一端である車を共同利用するカーシェアリングなど移動サービスへの注目度は高まっている。自動車メーカーやIT企業など異なる業種が移動サービス事業に参入。IT技術の進歩を追い風に、自動車に求められる価値が大きく変わりつつある。

⑦ 車の「所有」に影響すると言われているのが、シェアリングサービスだ。とりわけカーシェアは、好きな時に、必要な時間だけ車を借りることができ、キャンセルも自由。借りる際に必要な手続き

の手間が省け、高い維持費と駐車場確保の悩みから解放されるメリットは大きい。

⑧ 日本自動車工業会が4月に発表した2017年の乗用車市場動向調査では、カーシェアの利用は徐々に伸びつつあるものの、利用経験のある人はわずかな割合に止まった。利用意向を見ると、首都圏中心部と近郊の割合がやや高いが、全体では1割程度。サービス自体の認知度は4割弱だった。カーシェアの普及はまだ途上で、現時点ではサービス利用が車を保有しない理由にはなっていないようだ。

⑨ 大手メーカーなどは、新たなビジネス参画に意欲的だ。トヨタ自動車はカーシェアを含む新たな移動サービスを提供する新会社を設立したほか、ドイツ自動車大手のダイムラーとBMWはカーシェア事業を統合。ホンダや日産自動車は、販売促進を兼ねた「カーシェア」サービスを都心部を中心に始めた。最新モデルや電動車を試せると、会員数は徐々に増えているという。

⑩ 一方で、個人が所有する車を貸し出す個人間のカーシェアサービスも出てきた。BMWなど輸入車の登録も多く憧れの車に乗れると評判で、都心部の30代を中心にじわじわと利用者が広がってきているという。時代の流れとは言え、筆者は所有することに喜びを感じたが、車に求める価値は今後さまざまな形に変容しそうだ。



クルマの先進安全装備は、 あなたの安全運転で完成します。

先進安全技術を
備えたクルマが
増えています。



クルマの先進安全装備は、安全運転を支援するシステムです。
機能には限界がありますので、過信せず取扱説明書等でご確認ください。

衝突被害軽減ブレーキ



クルマが障害物を感知して、警告やブレーキの補助操作を行います。

定速走行・車間距離制御装置



設定車速内で前方のクルマとの車間距離を保ちながら追従走行して運転をサポートします。

車線逸脱警告



道路上の車線を検知して、車線をはみ出しそうになった時、警告音等を出して正しい位置に戻ることを促します。

後側方接近車両警告



死角になる斜め後方のクルマを検知し、危険を知らせます。

自動切替型前照灯



夜間走行時にセンサーが周囲の明るさや、先行車・対向車の有無を検知し、ハイビームとロービームを自動で切り替えます。

ペダル踏み間違い時加速抑制装置



前方(及び後方)の壁や車両を検知した状態で誤ってアクセルを踏み込んだ際、急加速を防止します。



衝突被害軽減ブレーキ等を備えた「安全運転サポート車 (サポカー)」の普及・啓発に取り組んでいます。

JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会
JAMA AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館
http://www.anzen-untan.com